

そもそもGAPは何のためのものか。
そしてGAP農産物のマーケットの広がり。



認定NPO 法人
GAP 総合研究所

GAP Research Institute
Certified Specified Nonprofit Corporation



自己紹介 武田泰明

<メイン4つ>

- ✦ 認定**NPO**法人**GAP**総合研究所(茨城県つくば市・台湾) 専務理事
 - ✦ JGAP / ASIAGAP / GLOBALGAP 指導・研修、シンクタンク、コンサルティング
- ✦ 農業生産法人 (株)つくば良農(茨城県つくば市) 代表取締役
 - ✦ キャベツ トウモロコシ 25ha / JGAP/ ASIAGAP 認証農場
- ✦ 農園リゾート (株)ザファーム(千葉県香取市) 代表取締役
 - ✦ 野菜60種類 10ha 貸農園、収穫体験、コテージ、グランピング、BBQ、キャンプ場、カフェ、温泉
- ✦ ビュッフェレストラン (株)グランイート(東京都中央区銀座) 代表取締役
 - ✦ JR有楽町駅 徒歩1分、GAP認証食材を使ったビュッフェ

<その他>

- ✦ 1976年生 / 筑波大学 生物資源学類卒業 / 同大学院 経営政策科学 修士(2002年)
- ✦ ケーアイフレッシュアクセス 物流センター事業部(2001年に退職)
- ✦ 三菱商事 食品本部(2005年に退職)
- ✦ 日本GAP協会 事務局長(2014年に退職) その後、監事
- ✦ 農林水産省 GAP戦略協議会 委員
- ✦ アセアン事務局 アドバイザー(GAP分野)
- ✦ (株)和郷 取締役 / 名城大学・鹿児島大学 講師(GAP分野)
- ✦ 日本適合性認定協会JAB 技術委員(GAP分野)



登録番号 123456789



Reg.A123456789

農業生産法人
つくば良農

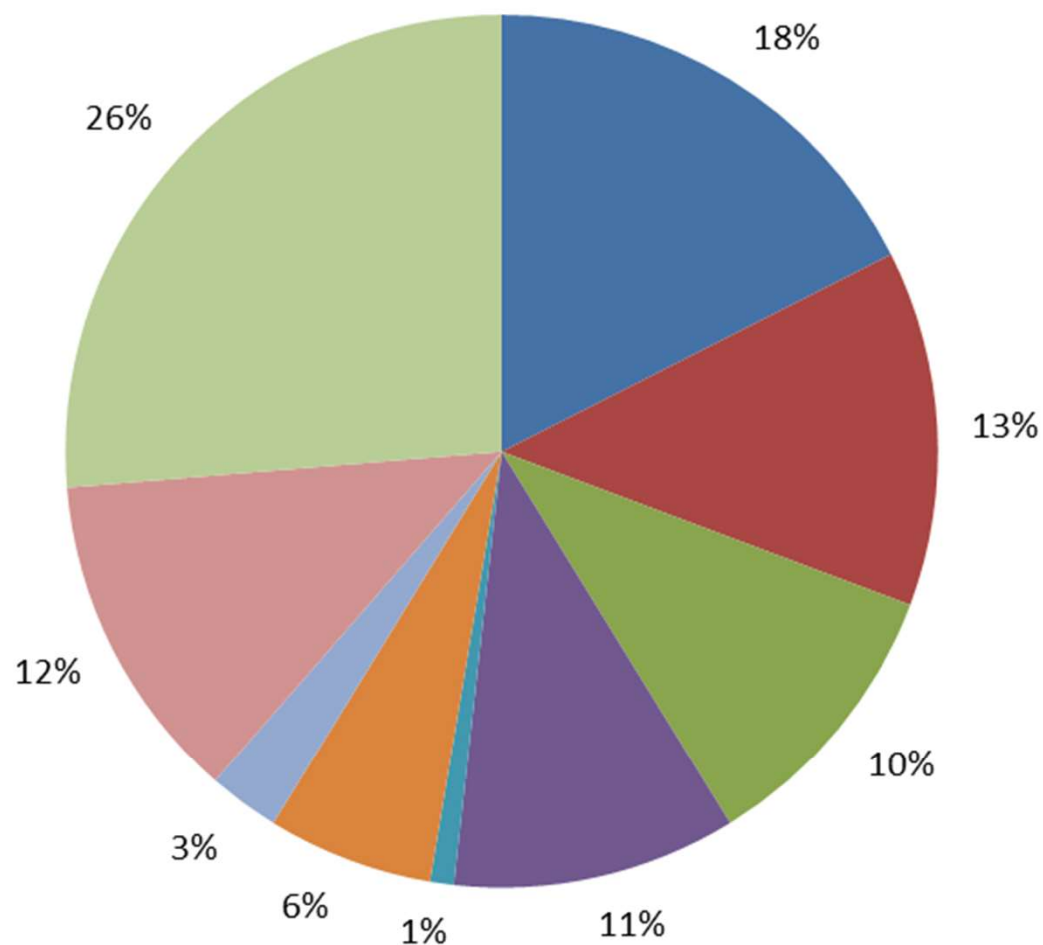
「安全な農産物」とは何か？

- ❁ 食品衛生法を遵守している農産物です。
 - ❁ 残留農薬の基準を順守している
 - ❁ 病原性細菌など、食中毒の問題が無い
 - ❁ ガラスなど異物混入の問題が無い
 - ❁ 放射能の基準を順守している(2012年3月～)
- ❁ 食品衛生法を違反した農産物を生産・出荷した場合、販売の禁止(商品回収・出荷停止)・懲役・罰金・などの措置がある

農薬の残留農薬基準違反 原因は？



農薬残留基準超過の原因別発生件数



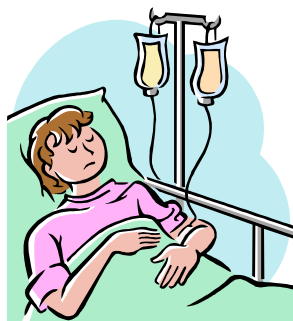
- 周辺圃場または同一ハウス内隣接作物からのドリフト
- 適用外使用(作物登録なし)
- 使用基準違反(使用時期、使用回数、使用方法)
- 農薬散布機・タンク・ホースの洗浄不足・不洗浄
- 長靴・灌水ホースに付着した薬剤・土壌が収穫作物に接触
- 過去使用農薬の土壌残留
- 前作使用農薬を後作物が吸収
- 調査中
- 不明

日本GAP協会調べ：2006年1月～2016年12月
出典：報道資料および公表された違反事例

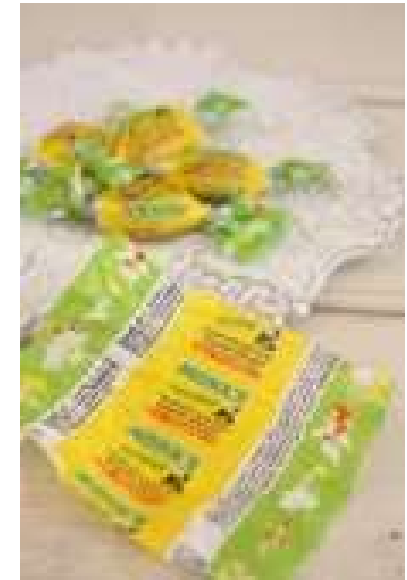
- 2012年 白菜の浅漬け 北海道 患者169人 8人死亡
 - 腸管出血性大腸菌 O-157
 - 汚染源として工場の人と水に加え、原料の白菜が疑われた
 - 白菜への汚染原因として、牛糞堆肥が疑われた

- 2011年 なすと大葉のもみ漬け 栃木 患者15人
 - 原料大葉から腸管出血性大腸菌 O-145 検出

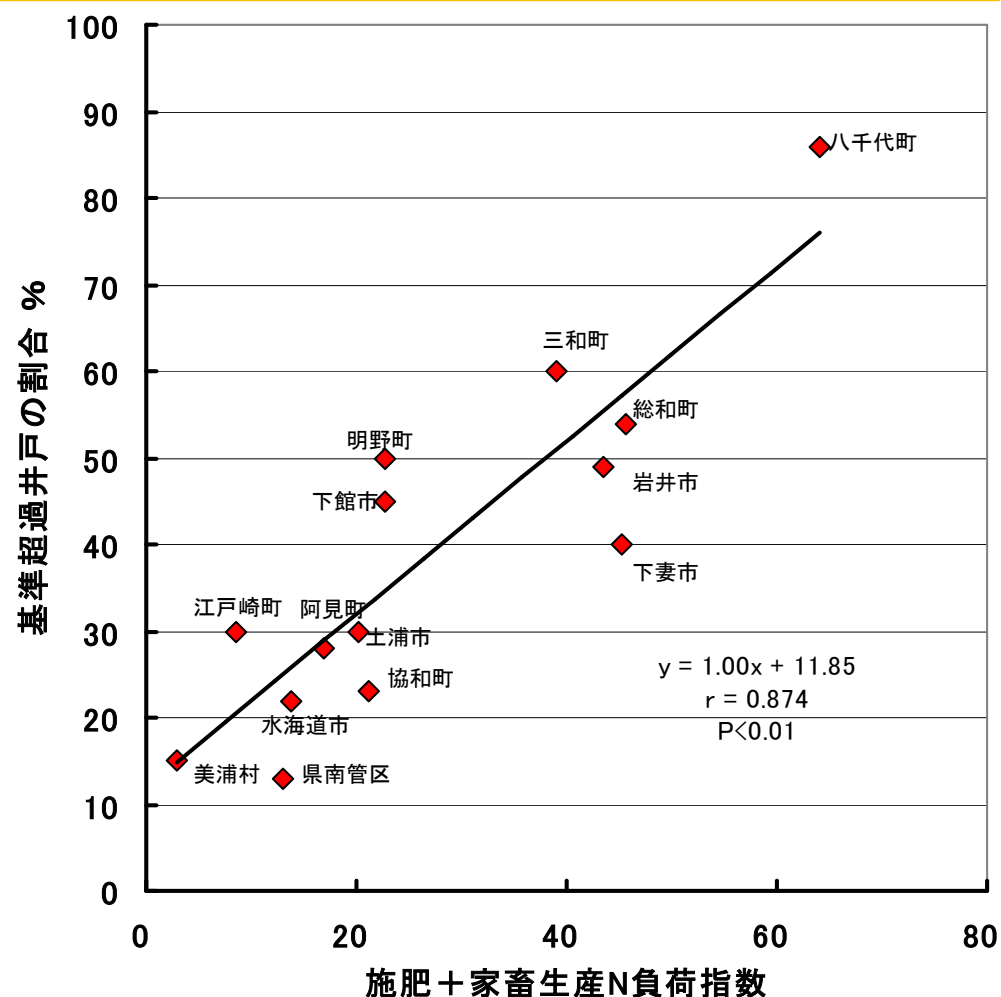
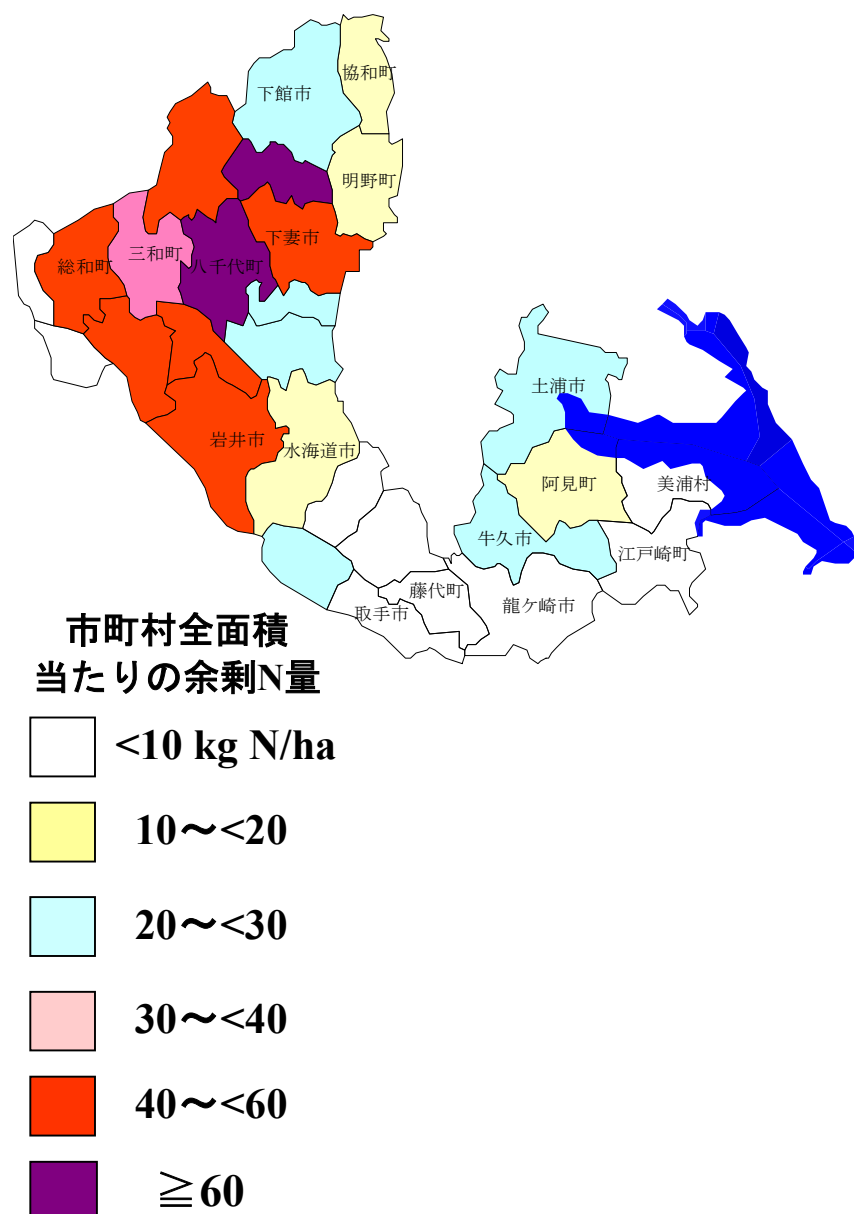
- 2011年 有機スプラウト ドイツ 患者4321人 50人死亡
 - 腸管出血性大腸菌 O-104 スプラウト種子が汚染源と断定



実際に起きている異物混入の事例

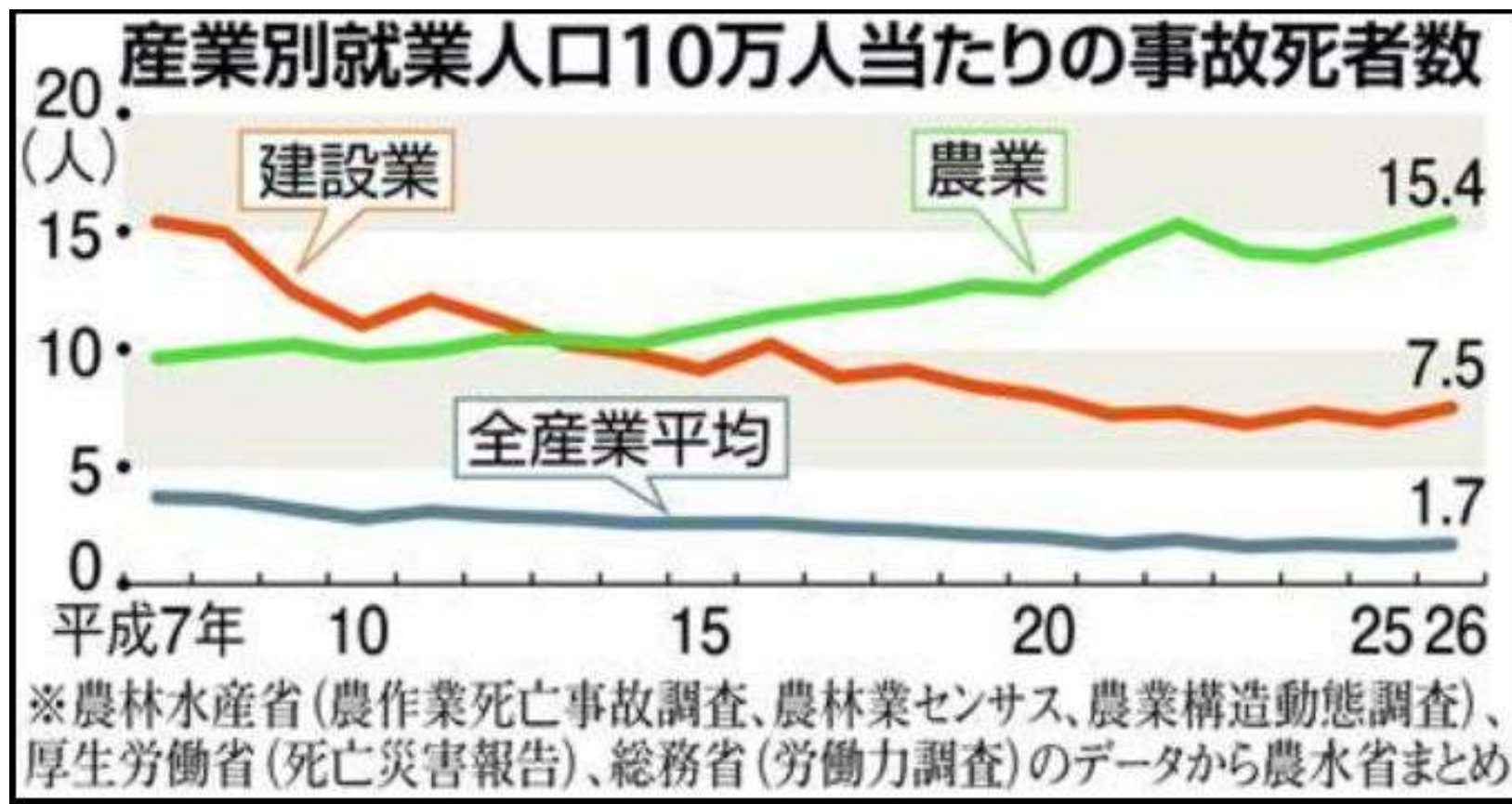


農業による環境汚染の例



茨城県南・県西地域における硝酸性窒素基準を超過した井戸の割合（1988年）と施肥+家畜生産N負荷指数（1980年）との関係
（西尾，2003）

食品事故より、もっと深刻 「農作業中の死亡事故」



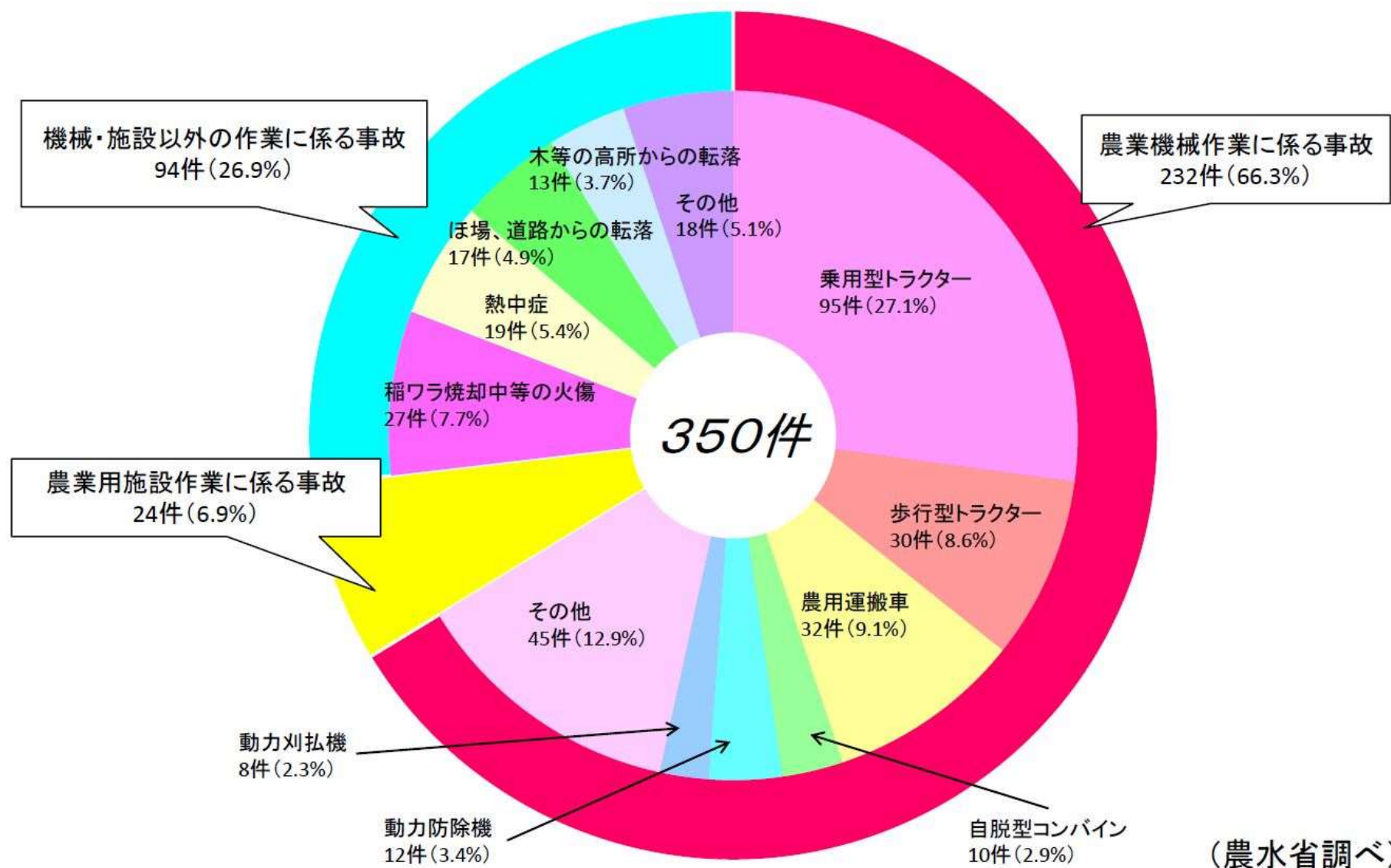
(産経新聞2016年9月)

この10年間にける年間死亡者数

農業 350－400人

建設業 340－370人

「農作業中の死亡事故」 原因分析



外国人技能実習生制度

米国国務省 人身取引報告書
日本弁護士連合会 勧告



第1 勧告の趣旨

1 技能実習生の監理団体である川上村農林業振興事業協同組合は、中国の技能実習生送出し機関である東北亜国際交流中心及び吉林新潤対外経済貿易合作有限公司から研修生ないし技能実習生を受け入れていたが、このうち2011年から2013年までの間に受け入れた技能実習生（以下あわせて「本件技能実習生」という。）について調査したところ、本件技能実習生は、長時間かつ休日の少ない厳しい労働環境と、狭く不衛生な寄宿舍が多いなどの厳しい生活環境などの過酷な条件下にあった。他方、上記送出し機関は、そのような環境から本件技能実習生が逃れたり、雇主に権利主張したりすることが事実上できないよう、私生活や交友関係に及ぶ規則とその違反に対する制裁金を定め、これら規則の遵守を監督する監督者を置き、さらに保証人・保証金による威嚇のもとで労働を強いて、預貯金の自由な処分の可能性を奪うなどの行為をした。同組合は、監理団体として、適正な技能実習の実施を監理するべき立場にあるところ、送出し機関がこれらの行為をしていることを知りながら、看過し、あるいはこれを利用して本件技能実習生の管理を行っていた。



JGAP導入前
【Before】

この
土間で
さつまいも
を
選別



JGAP青果物2016
管理点 5.1 / 24.4 /
14.3

JGAP導入前
【Before】



JGAP青果物2016
管理点 5.1 / 24.4 /
14.3



農業現場の食品安全、環境保全、労働安全、 人権・福祉の課題 これらの解決策としてのGAP

Good Agricultural Practice

日本語直訳：良い農業のやり方

【農水省の日本語訳】 農業生産工程管理

【FAO(国連食糧農業機関)の定義】

GAPとは、経済性、社会性、環境的な、持続可能性に配慮した上で、安全で健康的な食品や農産物を生産するために、圃場と収穫後の工程で適用される一連の原則・指針である

ASIAGAP/JGAPの基準書

ASIAGAP JGAP

ASIAGAP Ver.2.3 (2020年10月1日発表、2020年11月1日より運用開始)

総合規則

総合規則 Ver.2.3 PDF

農場用 管理点と適合基準

青果物 Ver.2.3 PDF

穀物 Ver.2.3 PDF

茶 Ver.2.3 PDF

団体事務局用 管理点と適合基準

団体事務局用 管理点と適合基準

主要改定点一覧

主要改定点一覧

主要改定点一覧

主要改定点一覧

**ASIAGAPおよび
JGAPの基準書は、
全てHPに掲載。
英語版も掲載。**

農林水産省「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」対応

JGAP
ジェイギャップ
Japan Good Agricultural Practice
(日本の 良い 農業の やり方)

農場用 管理点と適合基準

Basic 青果物
ベーシック

2016

2016年9月1日 発効

番号	レベル	管理点	適合基準	取組例・備考 (①や②の数字は適合基準に対応した番号)	適合性	コメント
24.2 農業の準備						
24.2.1	必須	農業使用の決定	① 農業管理の責任者は、管理点24.1.2で立てた農業使用計画に従って農業使用を決定している。 ② 計画を変更する場合には、変更した農業使用計画が管理点24.1.2を満たしているか再度確認してから決定している。 ③ 収穫予定日から逆算して使用日を決定している。 ④ その他、ラベルの指示事項に従っている。	② 例えば、普及指導員や農協・農業メーカーの有資格者に確認をとってから変更する。		
24.2.2	必須	農業の準備・確認	① 農業管理の責任者の許可・指示なく農業を準備・使用していない。 ② 最終有効年月を過ぎた農業を使用していない。			
24.2.3	必須	散布液の調製	① 農産物や環境に危害のない場所で散布液を調製している。 ② 農業を正確に計量している。 ③ こぼれた農業を処理するための農業専用の道具がある。 ④ 農業の計量と散布液の調製は、ラベルに従い、防除衣・防除具を着用して行っている。 ⑤ 散布液の調製時に給水ホースをタンクに入れて攪拌していない。	② 例えば、正確に計量できる秤、計量カップを用いている。 ③ 例えば、こぼれた農業を処理する道具には、砂、ほうき、ちりとり、ゴミ袋等がある。道具は管理点24.4.3⑤の道具と兼用にしている。 ④ 防除具は、例えば、保護眼鏡、農業用マスク(粉剤・液剤用)、防護マスク(粉剤・液剤用)、防護マスク(土壌くん蒸用)、ゴム手袋、ゴム長靴等がある。マスクの種類は農業のラベルに記載の安全使用上の注意事項に従う。		
24.2.4	必須	農業の計量・希釈	① 必要な散布液量を計算し、散布後に散布液や散布薬剤(粒・粉)が余らないようにしている。 ② 正確に希釈している。 ③ 混用が必要な場合はラベルの指示に従い、剤型による投入の順番を考慮して良く混ぜている。 ④ 計量カップや農業の空容器は使用後、3回以上すすぎ、すすいだ水は薬液のタンクへ希釈用の水の一部分として戻している。	② 例えば、希釈倍数を間違えないよう早見表を利用している。希釈用の水を正確に計るため平らな場所で水を準備している。 ③ 混用の前に混合剤があるか確認する。混用する場合は、例えば農協・農業メーカーに相談したり、混用事例集を活用する。		
24.3 農業の使用と記録						
24.3.1	必須	防除衣・防除具の着用	① 農業使用にあたり、作業者は農業のラベルの指示に従って適切な防除衣・防除具を着用している。 ② マスクについては、使用回数・期間の指定がある場合にはそれに従っている。	① 例えば、ラベルの指示通りのマスクであることを販売店に確認してから購入している。		

GAP第三者認証制度



JGAP JGAP認証書



審査・判定の結果、以下の内容で、貴農場がJGAPの認証を取得したことを証明いたします。

認証農場

株式会社つくば良農

認証の種類 : 個別認証

認証農場住所 : 〒300-1259 つくば市稲荷原 2-1

認証対象の農産物分類と品目 : 青果物 (キャベツ)

基準と版 : JGAP 青果物 2010

農産物取扱い施設の住所 : 同上

登録番号 : 080000080

審査機関識別番号 : 009

初回認証日 : 2016年3月4日

有効期限 : 2018年3月3日

一般社団法人日本能率協会品質管理センター
センター長 安井 龍一

〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22

日本で使われている様々なGAP



種類	運営主体	説明
JGAP 	(一財)日本GAP協会	・日本の農業界と流通業界が作成 ・青果物、穀物、茶、畜産 ・日本語、英語、中国語、ハングル語 ・第三者による認証を実施 ・消費者向け表示あり
ASIAGAP	(一財)日本GAP協会	・JGAPにGFSIの要求を追加。 ・GFSI承認の国際規格 ・青果物、穀物、茶
GLOBALG.A.P.	FoodPLUS Gmbh(ドイツに本部を置く非営利組織)	・欧州の流通小売りの大手企業が主導で策定した取引条件としてのGAP ・第三者による認証を実施 ・GFSI承認の国際規格 ・青果物、穀物、茶、畜産、水産
各都道府県のGAP	各都道府県	・各都道府県が独自に定めたGAP ・一部の都道府県でのみ第三者認証を実施
適性農業規範/農産物品質保証システム	日本生活協同組合(産直事業委員会)	・生協の「産直」商品を主な対象としたGAPの基準 ・生産者自身による点検と生協の二者監査を実施

国内におけるさまざまなGAP(各GAPの構成、特徴)



	農林水産省ガイドライン準拠 GAP	「GAP認証をとる」		
		JGAP	ASIAGAP	GLOBALG.A.P.
運営主体	都道府県等	一般財団法人日本GAP協会		FoodPLUS GmbH(ドイツ)
審査会社	—	6社		6社
審査費用の目安 (個別認証の場合※1)	—	約10万円＋旅費	約15万円＋旅費	約44万円＋旅費
東京2020大会 調達基準	△(都道府県の確認がある場合)	○	○	○
GFSI※2承認	—	—	青果物、穀物、茶について 承認※3	青果物について承認
認証取得経営体数※4 (国内農畜産業)	—	4,983	2,403	692

※1 個別認証のほか団体認証があり、団体認証では審査が全員ではなく抽出で行われ、団体事務局への審査も行われる。グループが大きくなるほど、個々の経営体の経費負担は縮小する。

※2 GFSI(Global Food Safety Initiative)とは、グローバルに展開する小売業者・食品製造業者等が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化に向け発足した組織(世界70カ国、約400社が加入するCGF(The Consumer Goods Forum)の下部組織)。

※3 平成30年10月31日GFSIの承認を取得。

※4 JGAP及びASIAGAPは令和3年3月末現在、(一財)日本GAP協会公表。GLOBALG.A.P.は令和2年12月末現在、(一社)GAP普及推進機構公表。複数の認証を取得している経営体については重複計上。

小売 食品 飲食企業 GAP普及の動き



農林水産省では、GAP認証農産物を取り扱う意向を有する実需者を「GAPパートナー」として募集し、HPに掲載！

					「GAPパートナー」の取組やお問い合わせ先等の詳細情報については、GAP情報発信サイト「Goodな農業！GAP-info」に掲載しております。 <Goodな農業！GAP-info> https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/gap-info.html			

《農産物》

持続可能性に配慮した農産物の調達基準(概要)

<要件>

- ① 食材の安全を確保するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② 周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動を確保するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ 作業者の労働安全を確保するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。

(要件①～③を満たすことを示す方法)

ア ASIAGAP、
GLOBALG.A.P.、
組織委員会が認める認証
スキーム ※ **JGAP**など

イ 「農業生産工程管理(GAP)の
共通基盤に関するガイドライン」
に準拠したGAPに基づき生
産され、都道府県等公的機関
による第三者の確認

<要件を満たした上で推奨される事項>

・有機農業により生産された農産物

・障がい者が主体的に携わっ
て生産された農産物

・世界農業遺産や日本農業遺産など国際機関
や各国政府により認定された伝統的な農業を
営む地域で生産された農産物

(海外産で、上記要件の①～③の確認が困難な場合)

組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

<国産を優先的に選択>

(国内農業の振興とそれを通じた農村の多面的な
機能の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品)

加工

(加工食品)

主要な原材料である農産物が本
基準を満たすものを、可能な限り
優先的に調達

サプライヤー(ケータリング事業者等)

出典:公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会作成資料

※ 農林水産省追記: JGAPのほか「有機JAS認証の審査項目に加えてGAPガイドラインの差分項目を確認する方法」などがある。

❁ GAPは農業経営者によるリスクマネジメント

- ❁ 残留農薬基準違反を起こしたい農家はいない
- ❁ 労働事故で大事な社員や家族を失いたい農家はいない
- ❁ 農家の自主管理能力を高め、様々な環境変化に対応し、高い安全レベルを保つ

❁ GAPは信頼できる農場の目印

- ❁ オリンピック選手村を含め、調達した原料で食品事故を起こしたいバイヤーはいない
- ❁ SDGs 企業の社会的な責任としての「持続可能性を考慮した調達」
- ❁ 国内外の農産物の流通・貿易において、バイヤーサイドの視点で、信頼できる産地を探すベストソリューション

GAP 消費者の認知度を上げる意義



令和元年度 食料・農林水産業・農山漁村に関する意向調査（農林水産省大臣官房統計部）

○ 調査の目的

GAPの取組やGAP認証に対する消費者の認知度や意識を把握するためにアンケート調査を実施。
（令和元年10月～令和元年12月。有効回答数は1,000。）

○ 主な回答結果

(1) GAPの認知度

ア GAPについて知っていたか

・知っていた	11.6%
・聞いたことはあるが、内容は知らなかった	16.3%
・知らなかった	72.1%

GAP 認知度
11.6%←5.4%(H29)

(2) 農産物取引におけるGAP認証の要件化等についての評価

イ 国内の食品関係企業（食品製造・卸売・小売・外食等）が、農産物の取引に当たってGAP認証を取引の要件としたり、優先的に取引することを評価するか

・評価する	47.0%
・評価しない	5.0%
・わからない、どちらともいえない	48.0%

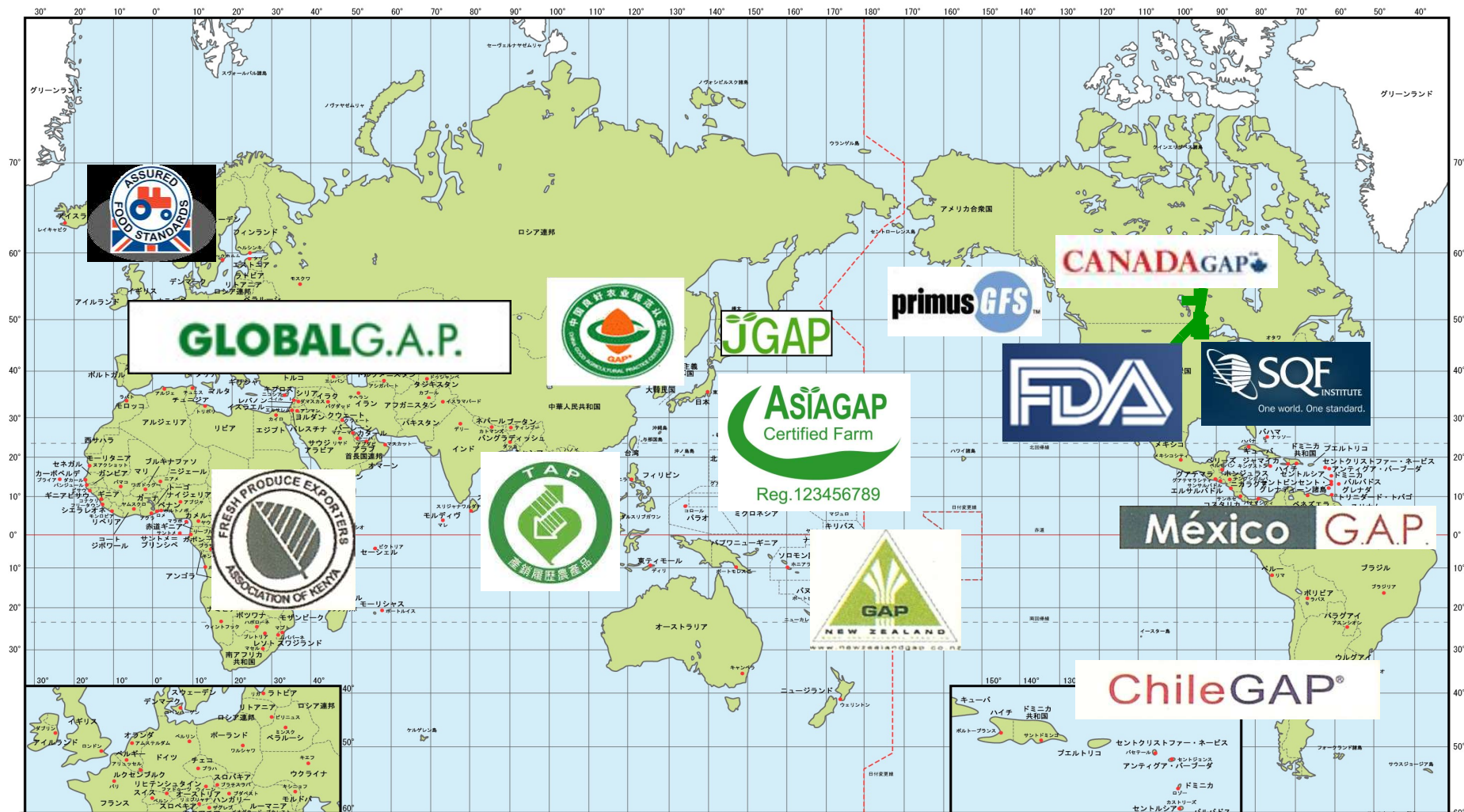
GAP認証を
取引基準にする
ことを評価する
47.0%

(3) GAP認証を受けて生産された農産物の購入意向

ウ 今後、GAP認証を受けた農産物を購入したいか

・割高になっても購入したい	8.6%
・同程度の価格であれば購入したい	77.1%
・購入したいと思わない	14.3%

世界のGAPの例



農業や商取引の事情を踏まえたGAPが世界各国・地域にあり、これはその一例。バイヤーが求めるGAPの認証を取るのが世界の常識。

SDGs(持続可能な開発目標)とは

ASIAGAP JGAP

SDGs (持続可能な開発目標) とは

SDGsは、2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳の参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた、「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことです。

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲット (達成基準) から構成されます。

それらは、貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範な課題を網羅しており、豊かさを追求しながら地球環境を守り、そして「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成することが目標とされています。

環境、経済、社会を三層構造で示した木の図



資料：環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究」より環境省作成

※農林水産省ウェブサイト掲載資料「SDGs×食品産業」から抜粋

<日本GAP協会の考え方ーウェブサイトに掲載ー>

農業は、地球環境と密接に結びついている産業です。持続的な農畜産物の生産には、土、水、気温といった自然環境が事業の将来を左右します。
継続的に農業を続けていくには、働く人の安全確保や福祉の充実、人材育成、差別のない職場環境など、将来を担う人材を確保するための取組が必要です。
食料である農畜産物を持続的に生産することは、貧困や飢餓という社会的な課題にも関わります。
日本GAP協会は、ASIAGAP/JGAPの認証プログラムを通して、世界共通の目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に貢献します。

	取組	関連するSDGs目標
 信頼される 農場管理	- 農場管理手順の見える化 - 責任体制の見える化 - 機械・設備・車両などの点検・整備のルール化	   
 食品安全の 確保	- 生産工程の整理 - 食品安全におけるリスク評価とその対策・検証 - 食品防衛や食品偽装の防止 - 土・水・肥料・農薬・動物用医薬品など資源の管理	  
 環境保全の 確保	- 地球温暖化への対策 - 生物多様性や周辺環境への配慮 - 廃棄物の管理や資源の有効利用 - 地域社会との共生	      
 作業者の 安全確保	- 作業者の労働安全対策 - 労働事故の防止 - 労働災害に対する備え	  
 作業者の 人権福祉	- 労働基準法などの法令遵守 - 使用者と作業者とのコミュニケーション - 差別・強制労働などの禁止 - 作業者の健康状態の管理 - 手洗い・トイレ設備の衛生管理	       

※ ASIAGAP/JGAP農産物の例。各管理点は様々なSDGs目標と関連します。

ご静聴ありがとうございました



消費者を大切に
環境を大切に
従業員を大切に

